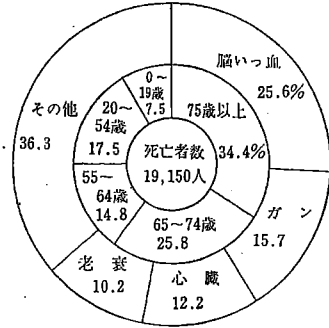


103. 死因別死亡者数 (1)

昭和9~11年平均死亡率(人口1,000人に対する割合)は18.9人(全国平均17.5人)であったが、戦後急速に低下し、昭和29年以降10人以下となり、42年は6.6人(全国平均6.7人)となった。

グラフは死因別、年齢階級別構成をみたもので、脳いっ血25.6%、ガン15.7%、心臓12.2%老衰10.2%の順になっている。前年に比較して総数で2.0%増加し、心臓12.5%、ガン3.7%増加したが、脳いっ血1.7%、老衰4.0%減少している。

死因別、年齢階級別死亡者数の構成 (昭和42年)



死 因	昭和40年	昭和41年	昭和42年
総 数	19 784	18 766	19 150
呼吸器系の結核	507	440	452
その他の結核	33	15	22
梅毒およびその続症	31	42	31
腸チフス	-	-	-
コレラ	-	-	-
赤痢	17	14	4
紅熱およびレンサ球菌性口炎	-	-	-
シブシブ	1	3	-
百日咳	1	1	-
髄膜炎菌感染症	2	1	1
急性灰白髄炎	1	-	-
麻疹	15	18	1
発疹チフスおよびその他のリケッチア病	-	-	-
マラリア	-	-	-
伝染性および寄生性として分類されたその他の疾患	90	63	68
悪性新生物	2 874	2 893	3 000
良性および性質不詳の新生物	137	139	145
糖尿病	129	133	142
貧血	44	33	41
中枢神経系の血管の損傷	4 930	4 984	4 900
髄膜炎	26	27	23
リウマチ	18	13	14
慢性リウマチ性心臓疾患	109	115	126
動脈硬化症および変性心臓疾患	1 744	1 662	1 910
その他の心臓疾患	406	305	306

厚生省大臣官房統計調査部調

103. 死因別死亡者数 (2)

死 因	昭和40年	昭和41年	昭和42年
高血圧性心臓疾患	384	417	451
その他の高血圧性疾患	213	198	206
脳いっ血	229	21	6
肺炎	799	598	634
気管支炎	198	159	142
胃および十二指腸の潰瘍	254	256	262
虫垂炎	22	13	15
腸閉塞およびヘルニア	83	93	93
胃炎、十二指腸炎、腸炎および大腸炎	316	302	302
肝硬変	183	178	185
腎炎	257	249	235
前立腺肥大症	17	16	12
妊娠、分娩および産褥の合併症	48	35	43
先天性奇形	122	119	125
出生時の損傷、分娩後窒息および肺不全	80	44	66
新生児の感染症	95	59	70
その他の新生児固有の疾患および性質不明の未熟児	359	286	367
精神病の記載のない老衰ならびに診断名不明および不明の原因	2 199	2 039	1 957
その他のすべての疾患	1 397	1 218	1 275
自動車事故	496	555	508
その他の不慮の事故	574	633	613
自殺	314	334	349
他殺および戦争行為	30	43	48

104. 理容所、美容所、旅館、公衆浴場等施設数

各年12月31日現在

年	理容所	美容所	普通旅館	公衆浴場	温泉利用	興行場	クリーニング所
昭和36年	2 737	1 482	1 077	366	36	157	894
37	2 818	1 574	1 136	373	39	155	893
38	2 936	1 713	1 603	378	41	144	951
39	3 094	1 909	1 268	387	46	132	1 064
40	3 263	2 088	1 370	417	49	126	1 212
41	3 435	2 319	1 480	422	54	118	1 476
42	3 585	2 563	1 568	449	60	110	1 672

環境衛生課調 注) 38年の普通旅館にはホテル、旅館および簡易宿泊業を含む。